

## スマートフォンを活用した インフラメンテナンスサイクルの構築に向けた実証 を開始します！！

戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)の成果を活用した社会実装へ向けて

牛久市は令和6年度より、東北大学インフラ・マネジメント研究センターが取り組んでいる「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP):EBPMによる地域インフラ群マネジメント構築に関する技術」に参画し、DXを活用したインフラメンテナンスサイクルに関する地域実証に携わっています。そしてこの度、市では新たな実証を行うことになりました。

※EBPM・・・エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング。証拠に基づく政策立案。

※メンテナンスサイクル・・・点検や診断、修繕などの措置や記録を繰り返し行う業務サイクルのこと。

### 実証の概要

- 日 時 令和7年2月18日から実証開始
- 対 象 牛久市道
- 事業担当 茨城県牛久市建設部道路整備課、下水道課、
- 協力機関 東北大学インフラ・マネジメント研究センター、ニチレキ株式会社

### 新たな実証の開始

#### ■グローバル アイズGLOCAL-EYEZ(スマートフォンによる道路点検 DX システム)の活用

これは、地方自治体等が、道路・下水道などインフラごとに実施していた点検や診断を、スマートフォンで撮影したデータを用いて一元管理するほか、保守の重要度を設定することにより、優先的修繕を行うべきインフラや箇所を選択が可能になるなど、維持管理にメリハリをつけます。

牛久市道路整備課・下水道課では2月18日(火)より、実際に市内の道路等のパトロールの際、公用車にスマートフォンを取り付け撮影し、実証を開始しています。

※GLOCAL-EYEZについては次ページをご参照ください。

これらの地域実証を通して地方自治体等のインフラ管理者が求めるニーズを積極的に発信し、恒久的で安心・安全な道路環境の確保に向けた高性能なシステムの構築に取り組みます。

※次ページあり

## GLOCAL-EYEZ

車に取り付けたスマートフォンで舗装道路を撮影するだけで、舗装路面のひび割れや段差などの損傷状態を点検することができる。

インターネット通信技術、AIなどのデジタル技術を結集したDX対応型の道路管理技術でもあり、スマートフォンと車さえあれば、誰でもどこでも安価に点検でき、道路の日々の管理から修繕工事の選定までを支援することが可能。

### ▶GLOCAL-EYEZでできること

- ・舗装点検(ひび割れ、IRIの評価、点検結果の簡易表示 等)
- ・日常管理(ポットホール検知、各種損傷等のランク評価 等)

### ▶業務での活用

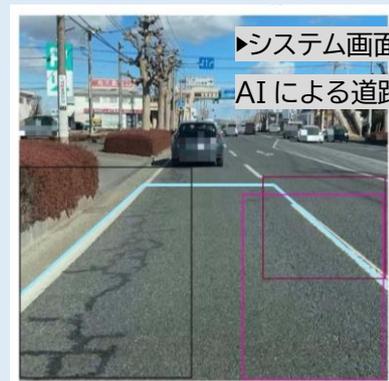
道路パトロール専用車両にスマートフォンを取り付けています。

なお、必要な機器については、今回の研究を主導している東北大学インフラ・マネジメント研究センターより、無償で借り受けています。



スマートフォンを活用することで道路状況の撮影及び位置情報の確認が可能！

▶スマートフォン設置状況  
GLOCAL-EYEZをインストールしたスマートフォンをセットし、調査区間を通常走行



▶システム画面  
AIによる道路状況解析

▶システム画面

調査した道路の位置・状況を一元管理・データ化

### お問い合わせ

○道路点検に関すること  
牛久市建設部道路整備課・下水道課  
担当:鈴木 竣大郎(内線2513)

○発信元  
〒300-1292 牛久市中央 3-15-1  
牛久市市長公室広報広聴課  
☎029-873-2111(内線 3221・3222)  
Email kouhou@city.ushiku.ibaraki.jp